

札幌商工会議所
業界動向調査結果（9月）

札幌市及び道内の主な経済概況

平成16年11月

札幌商工会議所 総合企画部

<http://www.sapporo-cci.or.jp/>

目 次

札幌商工会議所 業界動向調査

調 査 概 要 2

9月調査結果

総 括 2

9月の業界動向 3

札幌市及び北海道の主な経済概況 7

公共工事発注 8

住宅着工 8

個人消費 9

来道客数 10

札幌ビジネス地区オフィスビル空室 10

企業倒産 10

雇用情勢 11

札幌商工会議所
業界動向調査

調 査 概 要

■趣 旨 本制度は、市内主要企業にご依頼し、各業界の動向をお聞かせ頂き当所の諸事業に反映させる一方、会員・部会役員への情報提供の資料として活用致します。

札幌市を代表する13社（総括含む）から動向を聞き、結果を主要指標の動向と共に「札幌市及び道内の最近の経済概況」として取り纏め、公表するものです。

■調査内容 ①今月の業界動向について

a.各部門の対前年同期比売上の推移 b.取扱量の推移 c.季節的要因

②先行きへの見通し及びその要因

a.各部門の対前年同期比売上の推移 b.取扱量の推移 c.季節的要因

③トピックス

a.社会・国際情勢による変動 b.新技術事情 c.業界再編の動向

■調査方法 調査は隔月で実施

9 月 調 査 結 果

《 総 括 》

8・9月の道内景気は、雇用環境に改善の兆しはみられるものの、需要の弱さから回復への足取りは重く横ばい圏内の動きが続いている。

需要面に大きなウエイトを占める個人消費は、総じて弱い動きが続いている。家電製品は、薄型テレビやDVDレコーダーなどの売れ行きが好調に推移している。しかし8月の大型小売店販売額は、猛暑の影響で秋物衣料の出足が鈍かったほか、身の回り品も落込み既存店ベースで前年比5.9%減となったほか、9月も台風によるホテル・旅館の宿泊キャンセルが相次ぐなど低迷している。

公共投資は、国および地方自治体の予算制約もあり、9月の公共工事前払保証金額は同6.3%減少した。住宅投資は、9月の新設住宅着工戸数が同2.7%減となり、住宅ローン減税の縮小を意識した駆け込み需要が一巡し、5ヶ月ぶりに前年を下回った。利用関係別に見ると、貸家が前年を上回ったものの、持家が3ヶ月ぶりに減少したほか分譲住宅も2ヶ月連続の減少となった。設備投資は、一部の大手製造業に動きが見られるが、総じてみれば慎重姿勢が強い。

8月の鉱工業生産指数は、電気機械工業や金属製品工業などの上昇により同4.9%増と3ヶ月連続でプラスとなった。9月の企業倒産件数は、同4.7%増と9ヶ月ぶりに前年を上回ったが、水準としては低く、小康状態にある。雇用情勢では、9月の有効求人倍率（常用）は、サービス業や小売業などの新規求人数が増加したことから、前年同期に比べ0.05ポイント改善し、0.54倍となった。

なお、このところ原油価格の高騰などから原材料価格が上昇しているが、道内企業は販売価格への転嫁が遅れており、今後の動向が懸念される。

《 9月の業界動向 》

建設業界

建設業界は相変わらず公共事業の減少、民間需要の伸び悩み等により競争の激化、受注量の減少が続いており業況は依然として厳しい状況である。また、先行きについても明るい見通しは、今のところ見当たらない状況となっている。

また業界でのトピックス的な事項としては、今年度に入り、道内の企業倒産件数が減少しているが、建設業界も同様に倒産件数が対前年比減少の傾向にある。そのほか、9月に起きた台風18号による災害復旧のための補正予算の準備が国、道、市町村等で進められている状況である。

住宅業界

昨年11月からの年度累計売上（10月決算）で、若干前年度を下回っている。また戸建住宅、マンションを含めた総販売戸数も僅かに昨年を下回った。一方、土地や中古戸建、中古マンションの仲介業務（手数料収入）は前年比プラスとなっている。当社の売上の80%を占める戸建住宅一棟当りの単価は、昨年同程度維持ないし若干上回っている。

全国の住宅着工戸数は、ほぼ前年並みに推移し、北海道も、昨年度と同程度に留まっている。その数字も貸家に後押しされた数字となっており、これから施工の絶対数が減少する冬に向け、注文住宅は一層厳しい状態である。

世間情勢を踏まえ、内断熱から外断熱工法へのシフト、免震住宅、防犯住宅の研究が活発化している。デザイン的なものに加え、本来の住宅の基本性能を求めるお客様が多くなっている。また異業種の業界参入により、勢力地図に変化が見られる一方、経営が厳しい企業の支援要請等今後も淘汰が続くと予想される。尚、リフォーム市場では、異業種からの参入が多く業界全体のブラッシュアップが望まれる。

設備工事業界

官公庁物件は、台風災害等の要因により通常物件の発注にストップがかかっている感があり、苦戦している。また民間物件はマンション建設による工事が多いが、本州大手の参入により価格競争が一層激化している。建物建築の発注時期は春先（4～5月）、秋口（9～11月）、年度末（2～3月）の3つに偏る傾向があるが、今秋は9月に入っても発注のスピードは鈍い。

先行きについては、官公庁物件は、大きな潮流として公共工事予算の削減の方向は変わりなく、また、PFI方式や指定管理者制度の推進などに伴い工事受注が大手に流れる懸念があり、地場中小にとって厳しい状況にある。民間市場については、事務所ビルは頭打ち、大型店などの店舗も地場中小の参入が難しくなっており、また、市内マンションも飽和に近づきつつある感があり、住宅減税の打切りや金利上昇などの要素次第では、建設需要が一気に激減してくる懸念がある。

業界では、風力、太陽光、バイオガスなどの「新エネルギー」と、コージェネレーションをはじめとする様々な「省エネルギー」が、新規事業開拓のキーワードになっている。今年度に札幌の市立病院にて実施された「ESCO事業」が、次年度以

降諸官庁や民間物件にも広がってくる可能性があり、これが大手メーカー依存型ではなく、地場設備工事業者の取り組みに期待されるところである。

情報処理業界

平成 16 年 9 月度の売上実績は、ほぼ昨年並みの数値となった。

先行きについては、本年度目標と平成 16 年 9 月までの売上実績を比較すると、残り 5 ヶ月間(決算 2 月末)で本年度目標に必要な売上は、達成できる見込みとなっている。また受注度合い・発生度も例年並みとなっている。

全国的には海外にソフト開発を求める傾向が、いっそう強まっていると話題に上るが、実際に北海道にまでその影響が押し寄せているとは思えません。ただし、今後、近い将来、海外に価格競争で負けて、関東地方からの受注が減り、北海道での受託開発が厳しくなることは十分考えられる。

事務機 O A 関連業界

9 月の売上は前年同月比 10% 減となった。一方、販売数量については商品群にばらつきがあるものの、全体で前年同月比 3% の増となった。商品の中でも、モノクロ・カラーコピー機は数量、売上ともに増加したが、パソコンの価格下落が要因となり、販売数量は増加したものの、売上は減少するという結果になった。また前月比では、ほぼ横ばいとなっている。

先行きについては、10・11 月は売上、数量ともに横ばいと予測している。これから先の販売については、一般企業に対する情報漏えい防止であるセキュリティ商品や、カラーコピー機とカラープリンターの販売強化、また、官庁に対する提案に力を入れていかなければならないと考えている。また、一般消費者をターゲットに 12 月には、テレビ機能つきパソコンを売り出していく予定である。業界のトピックスとしては、引き続き、情報の漏洩防止に関心が集まっており、従来商品の性能をアップさせた新商品の動向が注目される。

貨物運送業界

9 月は、特別積み合せ貨物の取扱数量の減少による特積収入の減少（対前年△8.4%）の影響が大きく、全体として対前年減収となった。

また、先行きについては、今後も個人消費の低迷や、運賃単価の下げ止まり傾向は続くことが考えられるため、取扱数量・収入とも大きな期待はかけられない状況である。

トピックス的な事項では、運送業界全体として、運賃の値下げ圧力や、環境対策のための設備投資が増加している傾向にある。

機械関連業界

9月は前期末ということもあり売上額は、増加傾向となった。

先行きについては、本州のベアリングメーカー・工作機械メーカー等は、納期が半年から一年かかっている状況である。受注量も多いようだが、素材となる鋼材や鋳物の納期に時間がかかっているためであり、素材価格も年初から上昇傾向となっており、コストアップの要因になっている。

また、丸棒・板材等では、供給がされない寸法も出てきており、価格アップと併せて素材不足の傾向にある。

エネルギー業界

9月分の販売電力量は、電灯、業務用電力及び特定規模需要で販売電力量が増加したことなどから、24億7千8百万kWh、対前年伸び率は4.1%と高い伸びとなった。前年に比べ、8月下旬の気温が低めに推移したことによる販売電力量の減少はあるものの、検針期間が長かったことなどから、対前年伸び率は電灯で4.6%、低圧電力で3.3%と高い伸びとなった。

また、商業施設での新規出店の影響などから、業務用電力で対前年伸び率は4.2%と高い伸びとなった。さらに特定規模需要（自由化対象需要）では業務用需要で商業施設での新規出店の影響などに加え、産業用需要で「鉄鋼業」での生産増などから、対前年伸び率は5.5%と高い伸びとなった。

大口電力は、「紙・パルプ」での販売電力量の減少（マイナス3.5%）があったものの、「鉄鋼業」での生産増（19.3%）などから、対前年伸び率は1.7%と4ヶ月連続で前年実績を上回り、堅調な伸びとなった。

ホテル業界

9月は昨年度ほとんど無かった学会・大会物件の増加や月初めに十勝で日本初の開催となったWRCラリー選手権の影響などで、札幌市内のほとんどのホテルで前年の稼働率を上回る結果であったが、どこのホテルも平均単価が500円～1,000円位ダウンしており売上の下落傾向には歯止めがかからない状況である。

食堂部門では北海道直撃の台風18号の影響で一時客足も鈍ったが、各ホテルが参加した大通公園でのフードランド北海道も無事開催でき、ほぼ前年並みの売上を確保することができた。

10・11月と市内ホテルの宿泊は閑散期のシーズンに入り対前年比5～6%程入込が落ちると予想され、上半期同様単価ダウンも避けられない状況で売上を圧迫すると思われる。食堂部門、宴会部門は、忘年会・ディナーショー・新年会など集客が期待される年末・年始を迎えるが、10・11月は10%程売上ダウンの予測をしている。

9月の国内の来道者数は、九州・沖縄と海外旅行の復活で4ヶ月連続前年割れをしているが、アジアを中心とする海外からの観光客は引き続き増加している。しかしながら、観光のトップシーズンが終わり、このまま海外客が、雪が降るまでの年内、増加し続けるかは疑問である。

総合スーパー業界

9月は台風の上陸があったものの、土曜日、日曜日の天候が比較的安定し、行楽商材の動きが活発であったこと、及び月の中旬以降の気温が秋物商材に適した動きであったことなどから、既存店売上高は前年比100.7%と前年実績をオーバーした。買上客数も既存店前年比で103.1%と順伸、一方で客単価は既存店前年比97.7%と低下傾向が継続している。

10月は、前年同月と比較して曜日廻りが良く、また、台風の影響による野菜の価格高騰で青果物を中心に売上高の状況は引き続き好調に推移はしているものの、野菜の価格高が家計に与える影響も懸念材料となりつつあり、消費の先行きは楽観できる状況ではない。

業界動向としては、大手スーパーの再建問題が要注意となっている。また、11月の曜日廻りが10月に比べ悪く、また野菜の急激かつ大幅な価格高による家計への圧迫要因などから年末商戦へ向けて、小売各社の売上状況はかなり厳しくなることが予想され、販促合戦その他による新たなコスト負担増が懸念される。

旅行業界

北海道発では、前年比92%と低調に推移している。特に国内旅行が落ち込んでいる。また出張等のビジネス需要が依然として前年割れの傾向にある。観光性商品は熟年のお客様を中心に動きは活発化している。海外旅行は4月以降前年を上回り続けたが、9月に入り、SARSからの回復効果も薄れ、横ばい傾向に転じた。

国内旅行は先々の受注状況も依然、前年を下回っており、北海道の人の動きは非常に鈍く感じている。海外旅行は11月以降オーストラリア・ケアンズ直行便の運行により先々の見通しは明るい。

北海道着では、ほぼ前年並みで、4月来前年を割り続けているが、ようやく増加の兆しを見せ、個人フリー型が好調である。10月は昨年9月の地震の影響による落ち込みの反動から前年を大きく上回る入込みとなっている。また12月のスキー客の動向は雪の降り方が気になる場所である。

航空会社の企業用航空券予約システムがかなり普及しており、取引先企業への航空券お届け業務等が大幅に軽減されている。取引先企業もその利便性から利用率も高まっている。

定山溪温泉

9月の売上は、当社としてはほぼ前年並みを維持できたが、定山溪全体の状況では、宿泊が対前年比で約89%、日帰りが前年比94%と厳しい状況となった。しかし、9月下旬から1ヶ月間運行した観光スポットを周る無料周遊バスは、昨年比8%増と利用客には好評であった。また大型台風により、物が飛んできて窓が割れたり、壁の損傷があったりと、当社だけでも約90万円位の被害額となった。

10月に行われたイベントの入込みは、ほぼ横ばいで、今後は若者などをターゲットに集客を増やしていく対策を考えていかなければならないと感じている。また、11月から千歳一定山溪間を結ぶ送迎バスを組み込んだ企画商品がスタートする。

札幌商工会議所 業界動向調査結果（9月）
札幌市及び道内の主な経済概況

平成 16 年 11 月 10 日 発行

※同様の内容を下記のホームページでご覧いただけます。

札幌商工会議所 業界動向調査結果

<http://www.sapporo-cci.or.jp/gyoukai/>

札幌市及び道内の主な経済概況

<http://www.sapporo-cci.or.jp/gaikyou/>

【お問い合わせ・照会先】

札幌商工会議所 総合企画部

札幌市中央区北 1 条西 2 丁目

TEL.011-231-1330 FAX.011-231-1078

E-mail:kikaku@sapporo-cci.or.jp